

とちぎの子ども「確かな学力」向上のために ～令和5年度 全国学力・学習状況調査結果から～

令和5（2023）年 栃木県教育委員会

この資料は、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を基に、本県の特徴や指導に当たってのポイントをまとめたものです。本資料を活用して、「教科に関する調査」や「質問紙調査」の結果から見られる県全体の傾向を把握するとともに、とちぎの子ども「確かな学力」の向上に向けた指導改善にお役立てください。

1 教科に関する調査の結果から

(1) 教科全体の調査結果

教科全体としては、全国平均と同程度と捉えることができます。教科別に見ると、小学校算数においては、平成31年度に「知識」と「活用」の問題が一体化した出題形式になって以降初めて、全国平均正答率を上回りました。しかし、中学校数学、中学校英語については、全国平均をやや下回る結果が、ここ数年続いています。

栃木県の調査結果と自校の調査結果を比較して、共通点や差異点を分析し、日々の学習活動の改善・充実を図っていきましょう。



○ 栃木県公立（上段）と全国公立（下段）の平均正答率

〈小学校第6学年〉

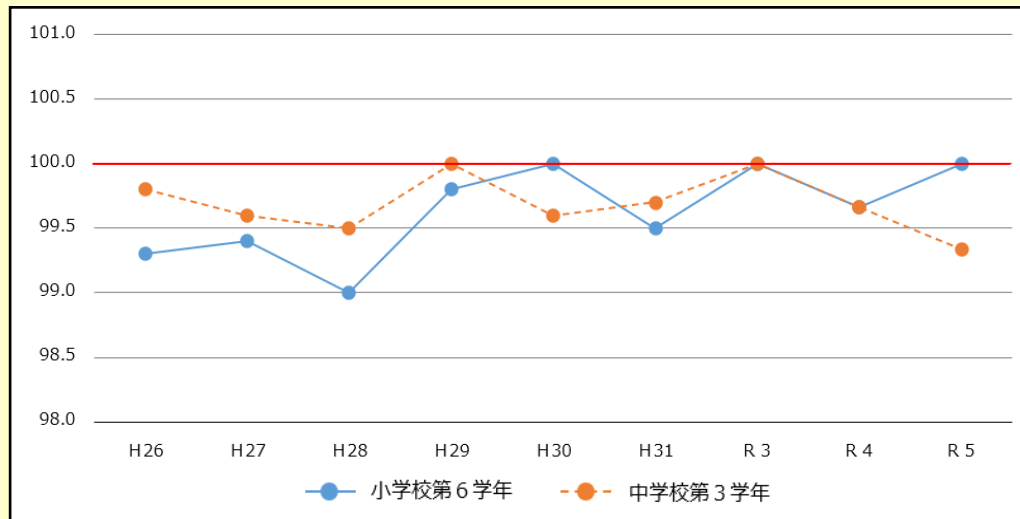
問題	H31	R3	R4	R5
国語	64.0 〔63.8〕	65 〔64.7〕	65 〔65.6〕	67 〔67.2〕
算数	65.2 〔66.6〕	69 〔70.2〕	62 〔63.2〕	63 〔62.5〕

〈中学校第3学年〉

問題	H31	R3	R4	R5
国語	73.0 〔72.8〕	65 〔64.6〕	69 〔69.0〕	70 〔69.8〕
数学	59.1 〔59.8〕	57 〔57.2〕	49 〔51.4〕	50 〔51.0〕
理科			50 〔49.3〕	
英語	55.0 〔56.0〕			44 〔45.6〕

- ※ 令和2年度は、全国学力・学習状況調査を実施していない。
- ※ 国の方針に従い、令和3年度より県の平均正答率を整数値で示している。

○ 栃木県（公立）の標準化得点の平均値の推移



標準化得点の推移を見ると、小学校においては、平成26年度から少しずつ右肩上がりとなり、ここ数年は横ばいの状態が見られます。

中学校においては、横ばい状態でしたが、令和3年度以降低下している傾向が見られます。

- ※ 標準化得点とは、全国平均が100、標準偏差が10となるように標準化された得点です。全国学力・学習状況調査は、年度ごとに設問数や問題の難易度を揃えていないため平均正答率による年度間の比較はできませんが、標準化得点により、過去の調査結果との相対的な比較をすることが可能となります。



(2) 設問別調査結果

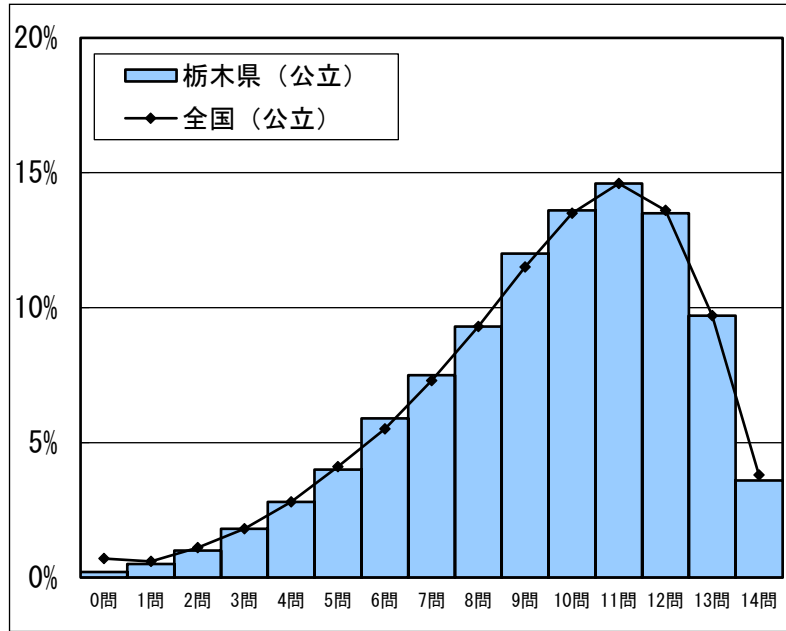
各教科の観点別や問題形式等ごとの平均正答率、正答数分布グラフ、設問別正答率について、栃木県（公立）と全国（公立）とを比較しながら見ていきましょう。特徴的な設問については、教科ごとに取り上げ右のページで解説しています。課題解決に向けて、これからの授業をどのように工夫・改善していくか、自校の取組の参考にしてください。



① 小学校 国語

〈正答数分布グラフ〉（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	5 70.7
		(2)情報の扱い方に 関する事項	2 63.1
		(3)我が国の言語文化 に関する事項	0
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・ 聞くこと	3 73.4
		B 書くこと	1 27.3
		C 読むこと	3 72.2
評価の観点	知識・技能	7 68.5	
	思考・判断・表現	7 66.3	
問題形式	選択式	9 73.7	
	短答式	2 61.3	
	記述式	3 52.9	



〈設問別正答率〉

※ 言葉：言葉の特徴や使い方に
関する事項
話す聞く：話すこと・聞くこと
情報：情報の扱い方に
関する事項
書く：書くこと
言語文化：我が国の言語文化に
関する事項
読む：読むこと

問題番号	問題の概要	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率		無解答率	
		知識及び技能			思考力、判断力、 表現力等			知識 技能	思考 判断 表現	態度	選択	短答	記述	栃木県 (%)	全国 との差		
		言葉	情報	言語 文化	話す 聞く	書く	読む										
1一	米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する		5・6 ア												64.6	-0.1	0.6
1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く					5・6 エ									27.3	0.6	6.4
1三 (1) ア	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(いがい)	5・6 エ													52.4	-0.4	5.0
1三 (1) ウ	【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す(きかん)	5・6 エ													70.2	-2.4	6.8
1三 (2) イ	【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したのとして適切なものを選択する(くらべて)	5・6 ウ													94.5	1.4	0.5
1四	【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する	5・6 カ													80.1	0.3	1.0
2一	【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する					3・4 ウ									90.0	0.0	0.4
2二	【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する					5・6 ウ									68.3	0.9	0.5
2三	相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する	5・6 イ													61.5	-0.5	0.7
2四	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができるようなことをまとめて書く					5・6 オ									58.4	2.2	7.2
3一 (1)	【インタビューの様子】の傍線部ア(～ということだと思いますが、合っていますか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する					3・4 エ									73.6	0.0	1.8
3一 (2)	【インタビューの様子】の傍線部イ(～というのは、どのような姿ですか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する					3・4 エ									73.8	-0.2	2.0
3二	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く					5・6 エ									72.8	2.6	10.8
3三	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	5・6 キ													56.4	-1.2	5.3

【小学校国語 1二】

出題の趣旨： 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

平均正答率 県 27.3% (全国 26.7%)

無解答率 県 6.4% (全国 7.1%)

- 田んぼの雑草の量と「カード④」のそれぞれから分かることを書くこと。
- 問題点の解決方法については、「カード⑤」をもとにして書くこと。
- 六十文字以上、百字以内にとめて書くこと。

【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしょうかくすることができました。しょうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬に学校の田んぼにえさを播きました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、うがいに雑草が生えてきて、とても多くなりました。そこで、農家の奥について、農家の田んぼとくらべてみました。おまかんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。

このようなことに取り組み、9月の下旬に米をしょうかくすることができました。

【カード④】

7月20日
【農家の石山さんのお話】

- ・雑草に栄養をとられると、米のしょうかくが減る。
- ・雑草が多いと、いねが病気になることがある。
- ・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

【カード⑤】

7月21日
【学校でできる解決方法】

- ・雑草取りの回数を増やす。
- ・雑草取りの人数を増やす。

二 川村さんは、選んだカードをもとに、次の「川村さんの文章」の問題点とその解決方法について書こうとしています。あなたが川村さんなら、どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

に学校の米作りの
に入る内容を

<類型から見られる本県児童の実態>

○ 誤答である解答類型5「【カード④】から分かる問題点と、【カード⑤】を基にした解決方法は書いているが、【川村さんの文章】のグラフから分かる問題点は書いていないもの」の反応率は18.7%であり、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があると考えられる。

誤答である解答類型4と解答類型5の反応率の合計は37.8%であり、他の解答類型に比べて、反応率が高かった。解答類型4と解答類型5は、学校の米作りの問題点について、【川村さんの文章】のグラフから分かることか、【カード④】から分かることのいずれかしか書いていないものである。これらの中には、グラフから分かることと、【カード④】から分かることを関係付けて捉えることができなかった児童がいたと考えられる。

<今後の指導に当たってのポイント>

○ 自分の考えが伝わるように文章を書くには、図表やグラフなどを用いるなどして書き表し方を工夫することが大切である。

授業では、伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを児童が考えられるようにすることが大切である。そのためには、それぞれの図表やグラフの特徴、優れている点などについて、他教科等と関連して指導することも考えられる。なお、引用した図表やグラフの出典については必ず明記するとともに、引用部分が適切な量になるようにする必要がある。

【小学校国語 2三】

出題の趣旨： 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる。

平均正答率 県 61.5% (全国 62.0%)

無解答率 県 0.7% (全国 1.6%)

- 1 自分にとって分からない言葉を四角や丸で囲み、運動と栄養素の働きとの関係を線でつないで整理している。
- 2 自分にとって重要な言葉を四角や丸で囲み、食品と栄養素の働きとの関係を線でつないで整理している。
- 3 自分にとって分からない言葉を四角や丸で囲み、食品と栄養素の働きとの関係を線でつないで整理している。
- 4 自分にとって重要な言葉を四角や丸で囲み、運動と栄養素の働きとの関係を線でつないで整理している。

【資料3】 相田さんが書きこみをしたパンフレットのページ

栄養素の働き

規則正しい食事をとることで、脳が活発に働いたり、元気な運動したりすることができます。ただし、同じものばかり食べたりしていると、栄養がたまってしまい、つかれやすくなったりいらしたりします。

食品は、栄養素の主な働きによって、下のように、主に三つのグループに分けることができます。

肉やパンなどは、主にエネルギーになります。

米や卵などは、主に体をつくるものになります。

筋肉がついたり、けがが治りやすくなったりします。

野菜や果物などは、主に体の調子を整えるものになり、病気にかかりにくくなります。

(栄養素の主な働きと食品の例)

主にエネルギーのもとなる

米、パン、バターなど

主に体をつくるものとなる

肉、卵、牛乳など

主に体の調子を整えるものとなる

野菜、果物など

三 相田さんは、食事の面から健康について考えている友達の話の話を聞いて、次は、相田さんが、四角や丸で囲んだり線でつないで整理している【資料3】です。相田さんは、何をどのように整理していますか。その説明として最も適切なものを、あとの1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

<類型から見られる本県児童の実態>

○ 誤答である解答類型1は3.7%、解答類型2は30.8%、解答類型3は3.3%の反応率であり、解答類型2の誤答が多い状況となっている。解答類型2を選んだ児童は、自分にとって重要な言葉を整理していることを捉えてはいるが、運動と栄養素の働きとを関連付けていることを捉えることができなかったと考えられる。

誤答を選んだ児童の中には、語句と語句を線でつなぐなどの表し方は理解していても、語句の意味や、語句と語句との関係を理解していない児童がいたと考えられる。

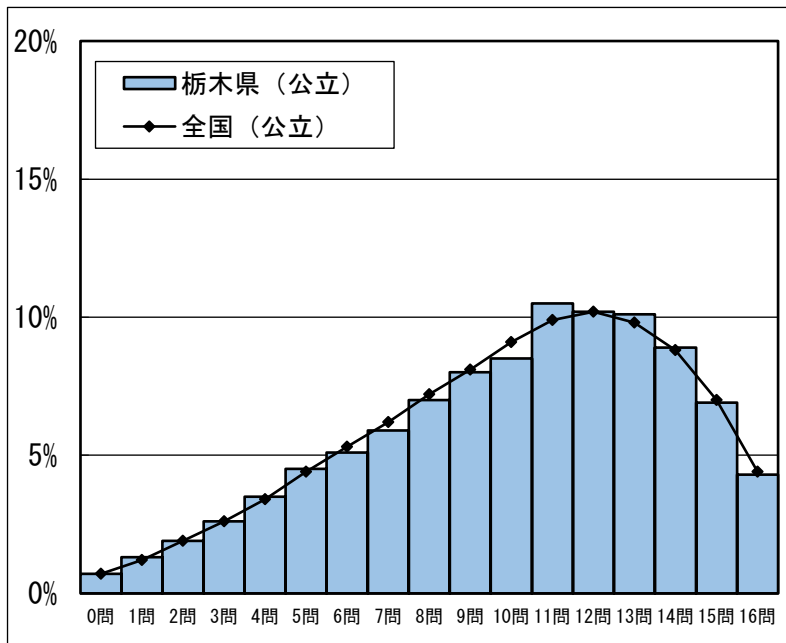
<今後の指導に当たってのポイント>

○ 図示などにより語句と語句の関係を表すことを通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができることを理解することが大切である。

授業では目的に応じて必要だと判断した複数の語句を、図示することによって整理できるようにすることが有効である。その際、児童が知っていたり、これまでの学習で使ったりしたことがある様々な情報の整理の仕方の中から、自分に合った方法を選ぶことができるように指導することが考えられる。必要に応じて、情報の整理の仕方について、一斉に指導を行うことも効果的である。

② 小学校 算数

〈正答数分布グラフ〉（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)
学習指導要領の内容	A 数と計算	6	66.9
	B 図形	4	49.6
	C 測定	0	
	C 変化と関係	4	69.4
	D データの活用	3	66.9
評価の観点	知識・技能	9	67.0
	思考・判断・表現	7	57.0
問題形式	選択式	5	58.4
	短答式	7	73.9
	記述式	4	48.4

〈設問別正答率〉

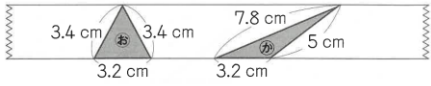
問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率		無解答率
		数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	知識技能	思考判断表現	態度	選択	短答	記述	栃木県(%)	全国との差	栃木県(%)
1 (1)	5脚の椅子を重ねたときの高さを求める				4(1) ア(ア)		○			○		92.4	-1.1	0.7	
1 (2)	椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く				5(1) イ(ア)		○			○		87.3	-1.2	0.9	
1 (3)	椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く				5(1) 5(2) イ(ア)		○				○	53.5	-2.0	3.5	
1 (4)	全部の椅子の数を求めるために、 50×40 を計算する	3(3) ア(ア)					○			○		79.9	-0.9	1.1	
2 (1)	テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ		4(1) ア(イ)				○			○		61.9	2.1	0.4	
2 (2)	テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く		2(1) ア(イ) 4(1) ア(ア)				○			○		86.9	-0.3	2.6	
2 (3)	切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く		3(1) ア(ア) 5(1) ア(イ)				○			○		23.0	-1.9	3.2	
2 (4)	テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだだけを書く		5(3) イ(ア)				○				○	26.7	5.9	2.8	
3 (1)	2種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ	4(6) イ(ア)					○			○		69.3	-1.0	1.1	
3 (2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを欄に入れることができるかどうかを判断する	3(5) ア(イ) 4(4) ア(エ) イ(ア)					○				○	55.5	-1.2	3.5	
3 (3)	$(151 + 49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	4(6) ア(ア) 4(7) ア(ア)					○			○		72.0	-0.4	1.9	
3 (4)	$66 \div 3$ の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ	3(4) イ(ア) 4(3) ア(ア)					○			○		49.0	1.4	2.8	
4 (1)	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ				5(3) ア(イ)		○			○		44.7	-1.3	1.6	
4 (2)	運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める	4(2) ア(イ)			3(1) ア(ア)		○			○		75.7	0.0	3.6	
4 (3)	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く				3(1) ア(イ) イ(ア)		○				○	58.0	1.8	13.3	
4 (4)	二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ				4(1) ア(ア)		○			○		67.0	2.4	3.6	

【小学校算数 2 (4)】

出題の趣旨： 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

平均正答率 県 26.7% (全国 20.8%) 無解答率 県 2.8% (全国 4.0%)

2) 4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

＜類型から見られる本県児童の実態＞

○ 誤答の反応率をみると、選択肢 2 を選んだ児童は 19.8% で、三角形を構成する辺の長さやその和などから、㊸の三角形の面積の方が大きいと判断した児童がいると考えられる。また、選択肢 4 を選んだ児童は 22.6% で、高さについて具体的な長さが示されていないため、比べることができないと判断している児童がいると考えられる。

正答である選択肢 3 を選んだ児童は 46.0% であるが、選んだ理由を正しく記述できた児童が 26.7% であった。全国平均と比べると 5.9 ポイント高い結果であり、これまで記述式問題について重点的に取り組んできた成果であると考えられるが、引き続き、記述に関しては工夫して取り組んでいく必要がある。

＜今後の指導に当たってのポイント＞

○ 三角形の面積の大きさを比べる際には、形や辺の長さ、角の大きさを確認しながらも、三角形の面積を求めるために必要な底辺と高さ特に注目して判断できるようにすることが重要である。

授業を行う際には、課題解決には直接必要のない情報を加えた図を示し、その図から課題解決に必要な図形の性質や数値を見いだす活動を意図的に設けることが考えられる。また、辺の長さを示さずに 2 つの図形を示し、どこの長さが分かれば面積を比べることができるのかを考えさせる活動も有効である。さらに、調査問題の誤答の選択肢を活用し、その選択肢を選んだ理由についてペアやグループで話し合わせたり、なぜ誤答になってしまうのかを説明させたり、記述させたりする活動も有効である。

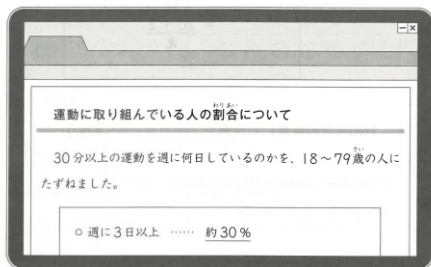
図形の領域の指導に関しては、この問題のように、形が異なる図形であっても、必要とする条件が同じであれば、面積が等しくなることを、実際に計算で求めたり、図を変形して確かめたりするなどして、実感を伴って理解させることが必要である。

【小学校算数 4 (1)】

出題の趣旨： 百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる。

平均正答率 県 44.7% (全国 46.0%) 無解答率 県 1.6% (全国 2.4%)

4) あいかさんは、毎日を健康に過ごすためには、運動、食事、休養・すいみんが必要であることを学習しました。そこで、インターネットで運動について調べると、下のような記事を見つけました。



あいか 1日に30分以上の運動を、週に3日以上している人の割合は約30%なのですね。

(1) 30%について考えます。割合が30%になるものを、下のアからオまでの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 100人をもとにした0.3人の割合
- イ 100人をもとにした3人の割合
- ウ 100人をもとにした30人の割合
- エ 10人をもとにした3人の割合
- オ 30人をもとにした1人の割合

＜類型から見られる本県児童の実態＞

○ 解答類型を見ると、選択肢のオを選んだ児童が 18.7% いることから、「30人をもとにした1人の割合」が 30% であると誤って捉えていると考えられる。このことから、百分率において、基準量を 100 ではない数で考えたときに、比較量がどうなるのかを理解することに課題が見られる。

＜今後の指導に当たってのポイント＞

○ 日常生活の場面において百分率で表された割合について、具体的な数量の関係に基づいて実感を伴って理解できるようにすることが重要である。

割合は、苦手意識をもつ児童が多い内容である。授業を行う際は、身近な事象を取り上げ、百分率や歩合で表された割合に関して、基準量と比較量について具体的な数値をもとに、線分図などを用いて視覚的に理解できるようにすることが大切である。その際、同じ割合を説明する場合でも、この調査問題のように、基準量を変えれば様々な説明ができることに気付くことができるようにすることも重要である。さらに、その後、児童が、自由に基準量を変えたり、割合の数値を変えたりして割合について理解を深め、ペアやグループなどで、同じ割合について自らの言葉で説明する活動を設けることも有効である。